

# 平成14年度市町村普通会計決算(速報)の特徴について (政令指定都市を除く県内95市町村)

## 1 特徴

### (1) 決算規模

<歳入総額> 1兆13億円(1兆552億円) 5.1% (1.2%増)  
<歳出総額> 9,733億円(1兆230億円) 4.9% (1.4%増)

・ 過去最大の減少となった。

平成14年度地方財政計画の伸び率 1.9%(地財計画上初のマイナス)

### (2) 決算収支

<実質収支額> 199億円の黒字(221億円の黒字)

・ 95団体のうち、93団体が黒字。

・ 昨年度に引き続き、大牟田市と川崎町が赤字団体であるが、両市町とも赤字額が減少した。

<単年度収支額> 22億円の赤字(39億円の赤字)

・ 95団体のうち、55団体が赤字(51団体)。

### (3) 歳入

・ 特例地方債(赤字地方債)である臨時財政対策債や基金からの繰入金は増加。

・ 地方交付税や利子割交付金、国県支出金や、エネルギー・産業技術総合開発機構からの交付金が減となったことにより歳入全体では減となった。

### (4) 歳出

・ 義務的経費は人件費が減少し、投資的経費も減となった。

・ その他の経費は積立金が大幅減となった。

### (5) 財政指標

<経常収支比率> 88.2%(84.6%) 平成13年度全国市町村平均 83.2%

・ 財政構造の弾力性を判断する経常収支比率が上昇し、財政構造の硬直化が進んだ。90%を超える団体は38団体(20団体)。

・ 100%を超える団体が4団体(芦屋町・稲築町・額田町・添田町)

100%を超える団体が出たのは平成10年度以来。

<地方債現在高> 1兆42億円(9,803億円) 2.4%増(2.0%増)

## (参考) 政令指定都市を含めた本県市町村の決算(速報)

<歳入総額> 2兆3,065億円(2兆3,734億円) 2.8%(0.8%)

<歳出総額> 2兆2,592億円(2兆3,164億円) 2.5%(0.6%)

政令指定都市を含めた決算規模も減少している。

<実質収支額> 261億円の黒字(289億円の黒字)

( )内の数値は、平成13年度決算の数値である。

(注) 宗像市及び玄海町は平成15年4月1日新設合併に伴い、両市町とも平成15年3月31日をもって打ち切り決算を行った(出納整理期間なし)

### 問題点

- ・ 経常収支比率の上昇にみられるように、財政構造の硬直化が続いていること。
- ・ 地方債現在高の増嵩による将来の財政負担が懸念されること。
- ・ 生活基盤の整備・高齢者福祉等市町村の財政需要は増大すると見込まれること。

### 対策等

- ・ 極めて厳しい財政状況や国・地方を通ずる構造改革の必要性を踏まえ、中・長期的視点に立った計画的な財政運営
- ・ 事務事業の見直し、組織の簡素効率化、定員管理・給与の適正化など行財政改革の一層の推進による経費節減
- ・ 市町村合併の推進による財政基盤の強化